

森松グループ

VALUE

今、ここ、私を常に考える
仕事は段取りで80%決まる

利は元にあります

受信は発信に比例する

みんなで、早く、遠くへ

【森松グループバリューへの想い】

バリューとは、在りたい姿であるビジョンを達成するために必要な我々の「行動指針」です。

かつて我々には、「モーリン語録」という指針がありました。

その中から最も大切にしたいものを4つ残し、新たに1つ追加したものが森松グループのバリューです。

PVC アワード展示会

森 直樹（社長）



3月1日より発表されたホルムズ海峡の封鎖は、3月末の現時点で一部の企業では出荷停止や受注停止、また値上げも近々発表になるだろうということで、徐々に影響が出てきております。弊社としては継続的な商品の供給が第一ですが、代替品の提案も含め迅速な対応に努めて参ります。また、この緊迫した情勢が一刻も早く収束することを願います。話は打って変わってPVC アワード2025について。昨年末に受賞作品の発表があり、弊社からも応募作品、また制作協力にていくつかの賞をいただくことができました。去る3月19日（木）から21日（土）の3日間、その応募作品の展示が名古屋のイオンタウン千種にて開催されました。私は主催側として会場設営を手伝い、そして展示期間中は通りがかった方たちに人気投票をお願いする声掛けを2日間行いました。人気投票の結果で「オーディエンス賞」が決まります（すでに受賞した作品は除きます）。イオンタウンという人通りは間違いなくある場所ではありますが、声を掛けた誰もが快く投票していただけるということは当然なく、どのように声を掛けて投票してもらうかを試行錯誤しつつの2日間となりました。もちろん掛ける声のトーンやこちらの表情なども重要な要素かと思いましたが、それ以上に展示に興味があるかどうか、そもそも投票という作業に対して関わる時間的余裕があるのか、その方の歩く速度や目線から判断して声を掛けていく——そういったことを考えつつ人気投票をお願いしておりました。今回のPVC アワード2025、総点数が100点近い全応募作品が対象となる一般の方からの人気投票「オーディエンス賞」の結果発表を楽しみにお待ちしております！

3つのチューニング

村田 恒夫（総務・経理）



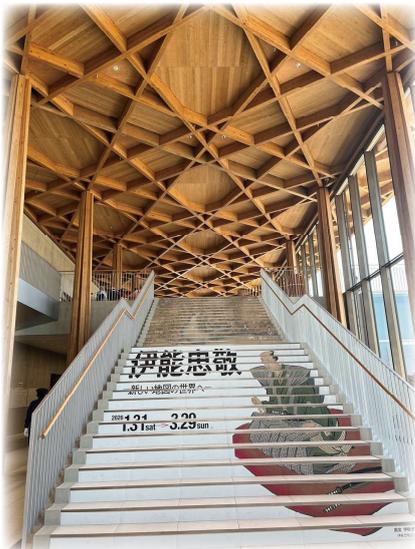
最近、ネットを見ていて気になった記事がありました。その記事とは、定年前後の過ごし方が老後の明暗を分ける、後悔しないためにも定年前後で必ずやっておきたい3つのこと、という内容です。私も今年の誕生日（2/15）で67歳となり、自分にも当てはまるどころが多々ありました。この時期には、「お金」「環境」「健康」の3つの大きな変化が訪れます。この大きな変化に対応するためにやっておくとよいことは、「家計」「資産」「暮らし」の3つのチューニングだと書かれていました。1. 家計を整える（現状をありのまま把握する等）2. 資産を運用する（全体の資産バランスを考えていろいろな運用方法を活用する）3. 暮らしをリセットする（整理整頓の実行・健康の再確認）「ただ家計だけを切り詰めればよい」というわけではなく、家計・資産・暮らしの3つの要素を現状の暮らしに合わせて調整していくことが大事なのです。私も、この3つのチューニングを実行中です。具体例の一部ですが、「家計」に関しては、現状を把握するために現在加入している保険の契約内容の確認・見直しを行いました。40年以上加入していたアフラック（1,500円/月）は、40年前の契約で保障内容が現状に合わないため解約しました。掛け捨ての保険だと思っていたのですが、解約返戻金が43万円あり（想定外）、驚きました。その他の保険に関しても、契約内容の確認を行うことで特約の追加・削除や、解約した場合の返戻金額なども把握できました。年金に関しては、これまで「ねんきん定期便」が送付されてきましたが、年金に関する知識が乏しくあまり気にしていませんでした。今年になって年金事務所を2回訪問し、しくみを少し理解できたのと、現状の年金見込額を把握することができました。「資産」に関しては、新NISAの非課税枠を利用した投資信託の積立を試行錯誤しながら継続中です。「暮らし」に関しては、健康のために妻とのウォーキングを続けています。定年前後の期間を上手に活用し、退職後は夫婦でのんびりと暮らしていけるように、「家計」「資産」「暮らし」の3つのチューニングを今後も継続していきたいと思っています。

自分の世界を広げる

清水 亮太（企画営業部）



先日、東京出張の際にGOOD DESIGN Marunouchiに行ってきました。目的は「PVC Award 2025」展示会の見学です。PVC（塩ビ）素材の優れた特長を活かし、生活の利便性向上、環境配慮・リサイクル・安全・医療・福祉・防災など、社会のニーズに応える商品を公募するコンテストです。「生活を豊かにするPVC製品」をテーマに94点の出品があり、弊社から4点が準大賞・優秀賞・特別賞に選出されました。受賞された皆様、おめでとうございます！今回はアップサイクル品が多かった印象で、りんごの搾りかすや革の端材を粉碎し、透明塩ビに混合することで独特な肌触りや風合いを表現でき、本来廃棄されるものが新たな価値を生み出しており、その組み合わせが面白かったです。私もいつかは入賞できるよう、日々の生活の中からアイデアや気づきをストックしていきたいと思います。その一環であったりなかったり、豊田市博物館に行ってきました。2024年4月に開館し、運営のコンセプトは「市民とともに作り続ける博物館」。常設展では豊田市の自然環境と、その中で育まれた歴史・文化・産業の営みと記憶を学ぶことができ、「えんにち空間」では市民や団体によるものづくりなど、さまざまな活動が紹介されています。企画展では、私が行ったときは「伊能忠敬—新しい地図の世界へ—」が開催されていました。伊能忠敬は日本全国を測量し、初めて実測による日本地図を制作した人物で、足かけ17年に及ぶ昼の地上測量と夜の天体観測という、丹念かつ地道な活動の成果によるものです。こうして豊田市の施設から、普段意識していない歴史に触れることができました。本当は隣接する豊田市美術館にも行きたかったのですが休館日でしたので、またの機会に訪れたいと思います。



花粉症対策

丹羽 義直（企画営業部）



まだまだ朝と夜は肌寒い日が続きますが、日中は暖かくなってまいりました。あっという間に春です。春といえば何を思い浮かべますでしょうか？新生活であったり花見でしょうか。私はもっぱら「花粉症の季節」という印象が強いです。年々症状は悪化し、去年は目・鼻・喉の“3タテ”で強いアレルギー症状が出ており、特に喉はひどく、しばらくまともに喋ることもできませんでした。個人的にはインフルエンザよりつらかったです。今年も目がむず痒くなってきたのを感じ、周囲の人にもアドバイスをいただき、マスクと目薬以外の対策を初めて取りました。症状が軽いうちの対応であれば被害も少ないとのことで、とりあえずアイボンとアレジオンを購入。花粉症の時期は、常々眼球を取り出して丸洗いしたい衝動に駆られていましたが、アイボンならそれが叶うことを知りました。これは本当に強い効果を実感しています。痒くはなるのですが、洗った後は快適そのもの。感覚的には徹夜の朝と熟睡の朝くらい、目の疲労感が違います。わかりづらい例えですね。次に鼻炎対策としてアレジオンを服用し始めました。今年は一度も鼻水が垂れてきていないので、効果は抜群ということでしょう。恥ずかしながら一番ひどかった喉対策は特に何もしていないのですが、症状は出ていません。なぜなのか？もしかしたら、鼻詰まりがないことで普段どおり鼻呼吸ができていていることにより、結果的に口腔内でのアレルギー反応が出ていないのかもしれないかもしれませんね。製薬会社の企業努力のおかげで、今年の春は快適に過ごせそうです。



「デザインマンホール2

松井 宣和（製造部）



昨年秋。友達の趣味でデザインマンホール蓋を集めに（写真を撮るだけ）出かけました。今回のミッションはマイカーで朝5時半出発。順路はまず、奈良県の春日大社、大和八木駅、橿原神宮、岸和田城および岸和田だんじり会館、和歌山城、三重県菰野町で日帰り温泉の予定。午前7時半、駐車場に到着。ここはどこ？民間の駐車場で、駐車料金1日500円と安いから……まだ7時半、混雑はないと思うのだけど。春日大社の駐車場に止めればいいのに……何年か前の慰安旅行で止めた覚えがあるが、一般車は1000円だったような。片道約1時間以上歩いた後、春日大社に到着。特別参拝まで30分前に並び、参拝料を支払い藤浪之屋へ。社殿は朱色で奇麗、複数ある灯籠の揺らめきが神秘的でした。東大寺は3回行きましたが、隣の春日大社は初めてで、行ってよかったです。周辺にはシカが多く、道路に寝ていてバスが立ち往生していました。奈良県橿原市では、カプコン創業者の出身地という縁から、市とコラボしたキャラクターのデザインマンホールや銅像など、まちづくりの取り組みが行われていました。3か所ほど写真を撮り、友達は満足そうでした。私にしてみればネットでいいのに……。橿原市といえば橿原神宮ですが、敷地が広大で見学に半日かかりそうなので、またの機会に。岸和田城は水堀もあり、天守はコンクリート造りで内部は資料館。かつては岡部氏の居城として知られています。隣のだんじり会館では、だんじりの歴史や展示があり、鳴り物（太鼓）の紹介が面白かったです。レプリカですが、大屋根に上ることもできます。すでに5時間ほど歩いていたので、その元気もなく断念。午後4時、和歌山城はあきらめ帰路へ。三重県菰野町のアクアイグニス片岡温泉に寄りました。源泉かけ流しの湯で約42度。晩ご飯は近くの料理屋で自然薯のフルコース。疲労回復にいいそうです。

森松グループ 新入社員のご紹介

名前：村上 貴司（むらかみ たかし）

趣味：野球観戦・ドライブ

自己紹介

一月に入社させていただきました村上 貴司と申します。

前職では医薬品製造に従事し、厳格な品質管理や安全基準を意識しながら業務に取り組んできました。

正確さと責任感を大切に、安定した生産に貢献してきた経験があります。

今回からは加工系の製造業に挑戦し、これまで培った基礎力を活かしながら、

新たな知識や技術の習得に積極的に取り組み、早期に戦力となれるよう努めてまいります。



先輩からひとこと

これまでの医薬品製造で培われた品質意識や責任感は、加工系の製造現場でも大いに活かせると思います。

新しい分野で覚えることも多いと思いますが、焦らず一つひとつ吸収していけば必ず力になります。

一緒に頑張っていきましょう！

現代病

久末 菜摘（森松産業）

今どきの小学生たちは、スマホを持っている子がたくさんいます。うちの子供もその一人です。家には固定電話がないので、安全面のために持たせています。どこにいてもすぐ連絡が取れるのはやっぱり便利で、親としては安心しますが、ずっとスマホでYouTubeやTikTokを観たり、友達と通話しながらゲームをしているので、スマホの使用頻度がとても高いです。スマホの制限時間を設けていますが、制限時間が終わりスマホが使えなくなると、テレビでYouTubeを観たり、別のゲームをしたりしています。高学年になるにつれ外ではあまり遊ばなくなり、ほとんど家の中で友達とスマホゲームをしています。まさに子どもの現代病だと思います。子どもをスマホ依存にさせないために対策していることは、スマホの制限時間を設ける、寝るときに部屋に持っていかない、スポーツをしてスマホを触る時間を減らすなどです。オーストラリアでは、16歳未満の子どものSNS利用を制限する動きがあります（Instagram、X、TikTok、YouTubeなど）。私は、中毒性のある仕組みやネットいじめ、未成年を狙う犯罪者などから子どもを守る良い取り組みだと思いました。こんなことを言っていますが、私自身もスマホ依存症だと思っています。スマホを家に忘れたら不安になるし、子供たちが寝た後の一人時間に、睡眠時間を削ってでもSNSや動画を観たりしています。今はその一人時間が私の楽しみになっていて、なかなかやめられません。何かほかの趣味を見つけてスマホを触る時間を減らし、使用時間に気をつけて、私も子どもと一緒にスマホ離れをしていきたいと思っています。

